

太鼓

G.Mahler の交響曲第6 番に寄す

戦場は活気を呈していた！
ドンパチ、ドンパチ、どえらい騒ぎ
一進一退のこう着状態
守りは堅い、こちらもあちらも
突撃かけても10歩で退却
司令官殿の首はひねられっ放し

ところがそこへ聞こえてきた
ドンパチ騒ぎを縫って次第次第に
規則正しい、あれは小太鼓
味方か敵か、双方兵士は耳を澄ますよ
しかし異なこと、この20世紀に
ナポレオンでも生き返ったか
鼓手を先頭に行軍とは！

硝煙の立ち込める中、兵士は目を凝らす
すると煙の中より現れ出たのは
何と、まだ6、7才の少年鼓手
双方の前線の真ん中歩いてゆくぞ
しかもたったひとりだ、おお太陽よ！
タッタラ、タッタラ、タッタラタ
ジャンヌダルクも蒼ざめる

一心不乱、前を見つめて少年は
リズムカルに叩いて進むよ
我に戻った冷徹な司令官殿等
うるさい蟻だと射撃命令
双方から一斉射撃！
ところが名手たちも慌てふためき
弾はぜんぜん当らない

タッタラ、タッタラ、タッタラタ
少年鼓手は軽々と前進
司令官殿等、やっきとなって叫ぶや叫ぶ
射て射て殺せ、敵は放^ほつとけ

ドンパチ、ドンパチどえらい騒ぎ
それでもやっぱりタッタラタ
少年鼓手は前進前進また前進

死人から溢れた内臓を踏んで
嬉しげにパチは動き続ける

^{てておや}
父親のバースデープレゼントか、その太鼓

それとも何処かで拾ったか
少年鼓手はタッタラ、タッタラ
とうとう射撃の真ん中通り抜け
また硝煙の中に消え去った

一斉射撃もやむなく中止
呆気に取られた兵士や士官
困り果てて咳いたは
「はて、どこまでやってたっけ」

(1982.5.1)